

# 装飾する魂



## THE ORNAMENTED SOUL A Universe of Ornaments Across the Euro-Asian World From Jomon and Celtic Art to Nebuta Design

青森県立美術館開館20周年

ユーロ・アジア世界をつなぐ文様の宇宙

縄文、ケルトから、ねぶたまで

2026年7月11日(土) - 9月27日(日)

休館日=7月27日(金)、8月17日(金)、31日(金)、9月14日(日) 開館時間=9:30-17:00(入館は16:30まで)  
☆7月18日(土)、8月15日(土)、9月19日(土)はナイトミュージアムにつき20:00まで開館(入館は19:30まで)

主催=装飾実行委員会(青森県立美術館、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、青森県観光国際交流機構)  
学術協力=立教大学、青森県立郷土館  
助成=芸術文化振興基金、公益財団法人花王芸術・科学財団、公益財団法人三菱UFJ信託地域文化財団  
後援=アイルランド大使館、日本ケルト協会、青森県教育委員会、青森市教育委員会、函館市教育委員会、  
東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、青森ケーブルテレビ、エフエム青森

通常チケット=一般1,700円(1,500円)/大学生1,200円(1,000円)/18歳以下及び高校生無料  
セット券(装飾展+コレクション展)=一般2,060円/大学生1,320円  
※前売券 ローションチケット [Lコード22389] ※( )内は前売券及び団体料金 ※心身に障がいがある方と付添者1名は無料

# 20TH

青森県立美術館  
AOMORI MUSEUM OF ART

## 輝き出す、宇宙みぎの文

人はなぜ「飾る」のでしょうか。「装飾」という営み、それは人間に「命の輝き」をもたらし、回復させる、「美の知恵」として生まれた果敢な表現の継承でした。

世界の装飾文化に深い考察を巡らせてきた、多摩美術大学名誉教授で芸術人類学者の鶴岡真弓氏を監修に迎えて開催する本展は、ヨーロッパの「ケルト」装飾写本から、縄文遺跡の土器・土偶の数々、アイスやナナイなど北方の民の精神世界を照らし出す衣装や宝飾品、さらには棟方志功の「板画」、そして「ねぶた」など、「西の極み・ケルト」から「東の極み・日本」まで、珠玉の「装飾／文様の宇宙」を、鶴岡氏が提唱する「ユーロ＝アジア世界」の広がりの中に輝かせます。

### ●関連展示＝青木淳

「青森県立美術館の装飾、もしくは被覆」  
建築家・青木淳氏の言葉に導かれ、館内外11箇所の美術館の「装飾」スポットを発見します！



青森県立美術館  
南側窓  
撮影＝小山田邦哉

### ●監修者・鶴岡真弓氏対談

#### ①「世界遺産と『装飾する魂』」

日本の“縄文”とアイルランドの“巨石”

7月11日⑨ 14:00-15:30

鶴岡真弓氏×岡田康博氏（三内丸山遺跡センター顧問）

会場＝青森県立美術館シアター

入場料無料 | 定員170名 | 要事前申込

#### ②「渦巻く笑い」と「渦巻文様の呪力」

8月15日⑨ 14:00-15:30

鶴岡真弓氏×シツソンズじろう氏（エンターテイナー）

会場＝青森県立美術館シアター

入場料無料 | 定員170名 | 要事前申込

\*詳細は当館HPをご覧ください

### ●アニメーション映画上映

トム・ムーア監督によるケルトの伝説に着想を得た3作品を

上映。すべてアカデミー長編アニメ映画賞ノミネート作品！

8月9日⑨『ブレンドンとケルズの秘密』（2009年）

8月16日⑨『ソング・オブ・ザ・シー 海のうた』（2014年）

8月23日⑨『ウルフウォーカー』（2020年）

上映時間（各日）＝吹替版 10:00～ | 字幕版 13:00～

会場＝青森県立美術館シアター

入場料無料 \*詳細は当館HPをご覧ください



『ブレンドンとケルズの秘密』より ©Les Amateurs, Vivi Film, Cartoon Saloon



『ケルズの書』（800年頃）より  
©The Board of Trinity College Dublin



蝦夷錦（蟒袍【もうほう】）市立図書館蔵



左＝[国宝] 中空土偶 縄文時代後期 函館市蔵(7/11-8/30は複製展示)  
右＝[長野県宝] 水煙渦巻文深鉢 縄文時代中期 井戸尻考古館蔵



棟方志功《飛神の囀》棟方志功記念館蔵



カバラビキ／衣服（木綿）青森市教育委員会蔵

## 「ホモ・オルナトゥス（飾る人）」の発見

私たち人類・人間は、「ホモ・サピエンス（知恵の人）」と呼ばれますが、「ホモ・ファベル（作る人）」であり、さらに輝く美を「生の営み」のなかに創り出してきた、創造的な「ホモ・オルナトゥス（飾る人）」として生かされてきました。

昔も今も私たちの「飾る営み」は、「身体」「服飾」「建築」「インテリア」「庭園」「環境」まで、聖と俗の両方の空間に連続と止むことなく再生され続けています。

地球の生命が疲弊し、国際社会が昏迷する今、遙か、いにしえの人々が宇宙・自然に「生かされている」ことに感謝し創造した「装飾的思考」を、根源から発揮する時が来ているのではないのでしょうか。

夏の朝に咲く朝顔の蔓草を文様にした人々。星の輝きを布に刺してきた先人たち。生きとし生けるものの死をも乗り越えていこうとする「装飾する魂」。それは人類の生き方が問われる現代にこそ、この地上で発揮され、新たな希望を創出する時を迎えていると思います。

鶴岡真弓



### ●アクセス

▷JR新青森駅から車で約10分

▷青森駅から車で約20分

▷青森空港から車で約20分

▷東北縦貫自動車道青森I.C.から車で約5分 [八戸方面から]

青森自動車道青森中央I.C.から車で約10分

▷青森市営バス青森駅前（6番のりば）「三内丸山遺跡行き」

乗車、「県立美術館前」下車（所要時間約20分）

▷ルートバスねぶたん号JR新青森駅東口（3番のりば）乗車、

「県立美術館前」下車（所要時間約10分）

## 青森県立美術館

問合せ先＝装飾展実行委員会（青森県立美術館内）

〒038-0021 青森市大字安田字近野185

Tel. 017-783-3000

展覧会内容やチケット購入方法、その他最新情報など詳細は下記をご覧ください。

HP＝www.aomori-museum.jp

X＝X.com/aomorikenbi/

インスタグラム＝instagram.com/aomorikenbi/

